

令和2年度 学校評価の結果と状況分析

1 アンケートの回収状況

	対象	対象者数	回答数				回答率
			小	中	高	計	
1	教員	32	10	8	14	32	100%
2	保護者	44	12/12	9/12	15/20	36/44	82%
3	学校評議員	5	5				100%
4	ばんだい荘職員	7	7				100%
5	高等部生徒(抽出)	18	18				100%

※保護者は世帯数を表す。11月1日現在在籍児童生徒保護者を対象として実施

2 評価結果と学校経営・運営ビジョンにおける達成概況

(1) 評価結果

	ビジョンの内容	教員	保護者	ば荘	評議員	状況
全	楽しく登校できる学校	4	4	4	4	◎
学び合う授業 づくり	児童生徒に合った学習の実践	4	4	4	4	◎
	体験学習と自ら学び、学び合いながら生活に必要な力の育成	4	4	3	4	○
地域につながる 取り組み	進路情報の提供と計画的な進路相談	4	3	4	4	○
	連携を深め、生徒に応じた校内、校外実習	4	4	3	4	○
	ニーズに応じた保護者同士の情報交換の場や教育相談の実施	4	4	3	4	○
	セミナーなどを実施し、良い授業づくりのための取り組み	4	4	4	4	◎
命を守るための 教育	保護者、ばんだい荘との協力し合った積極的な対応	4	3	4	4	○
	自他、命の尊重といじめ防止の取り組み	4	4	3	4	○
	自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりの取り組み	3	3	3	4	○
	災害への備え、防災教育	4	4	4	4	◎

※ 教員、保護者の評定は、3学部の評価を合わせた割合として評定をしている。

※ 評定は、以下の基準で行う。

評定	評価基準
4	「A」と「B」を合わせて90%以上で、「C」と「D」を合わせて10%以下の項目がある場合
3	「A」と「B」を合わせて70%以上であるが、「C」と「D」を合わせて30%以下の項目がある場合
2	① 「A」と「B」を合わせて40%以下であり、「C」と「D」を合わせて60%以上の項目がある場合 ② 「C」と「D」のいずれかが40%を越える項目がある場合
1	「C」と「D」を合わせて80%以上の項目がある場合

<ビジョンの達成状況>

「達成している」 → ◎	評定が対象区分において、すべて「4」である場合
「概ね達成している」 → ○	評定が対象区分において、「4」と「3」である場合
「改善を要する」 → △	評定が対象区分において、「2」がある場合
「問題がある」 → ×	評定が対象区分において、「1」がある場合

(2) 概況

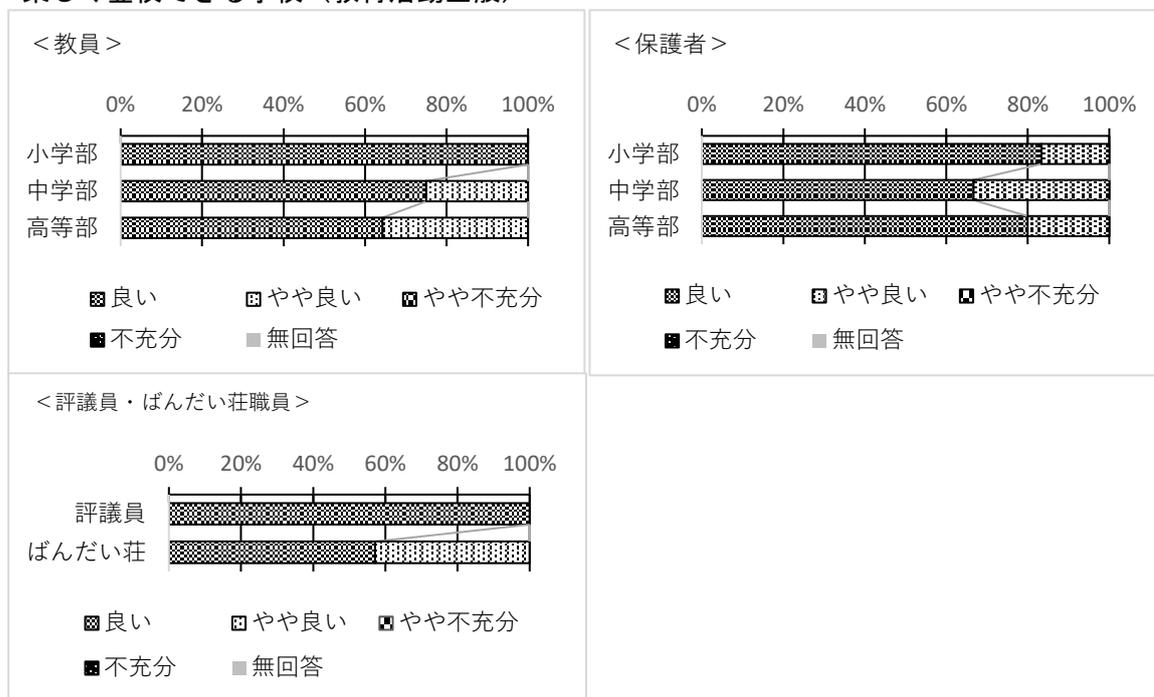
- ① 全ての評価項目において、教員、保護者、学校評議員、ばんだい荘職員ともに概ね評価ポイントが高いことから、学校の取り組みとして、学校経営・運営ビジョンが達成されていると評価されたと言える。
- ② 教員の評価は、概ね評価ポイントは高いが、生活習慣の改善と健康づくりの取り組みに関しては「やや不十分」「不十分」との評価があり、具体的取り組みとして取り上げていた「**自分手帳**」の活用の仕方について課題がある。
- ③ 保護者の評価は、楽しく登校できる学校、児童生徒の実態に合った学習の実践に関する評価ポイントが高く、学校生活及び学習の取り組みについては概ね満足を得られている。一方で、進路指導に関すること、保護者、ばんだい荘との協力と積極的な対応、自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりの取り組みについては、比較的评价が低い傾向がうかがえる。
- ④ ばんだい荘職員の評価では、楽しく登校できる学校、児童生徒の実態に合った学習の実践、進路指導に関する項目、より良い授業づくりのための取り組み、保護者、ばんだい荘との協力と積極的な対応に関する項目が他の項目と比べて比較的高い評価を得ており、本校の教育実践の理解とお互いに協力、連携しながら児童生徒の指導、支援に当たっていると実感されていることが推察される。一方で保護者同士の情報交換の場や教育相談の実施、生活習慣の改善と健康づくりの取り組みについては「やや良い」「やや不十分」の割合が高く、保護者同士の情報交換や自分手帳の取り組みについて、知ることができないためであると推察される。

3 各項目における評価結果と評価者間の比較・分析

注1：各回答間の比較において「多い」、「少ない」の表現で分析を行っているが、実数の比較ではなく傾向の比較として解釈すること。

注2：() 内は、学校経営・運営ビジョンの各項目の表記

(1) 楽しく登校できる学校（教育活動全般）

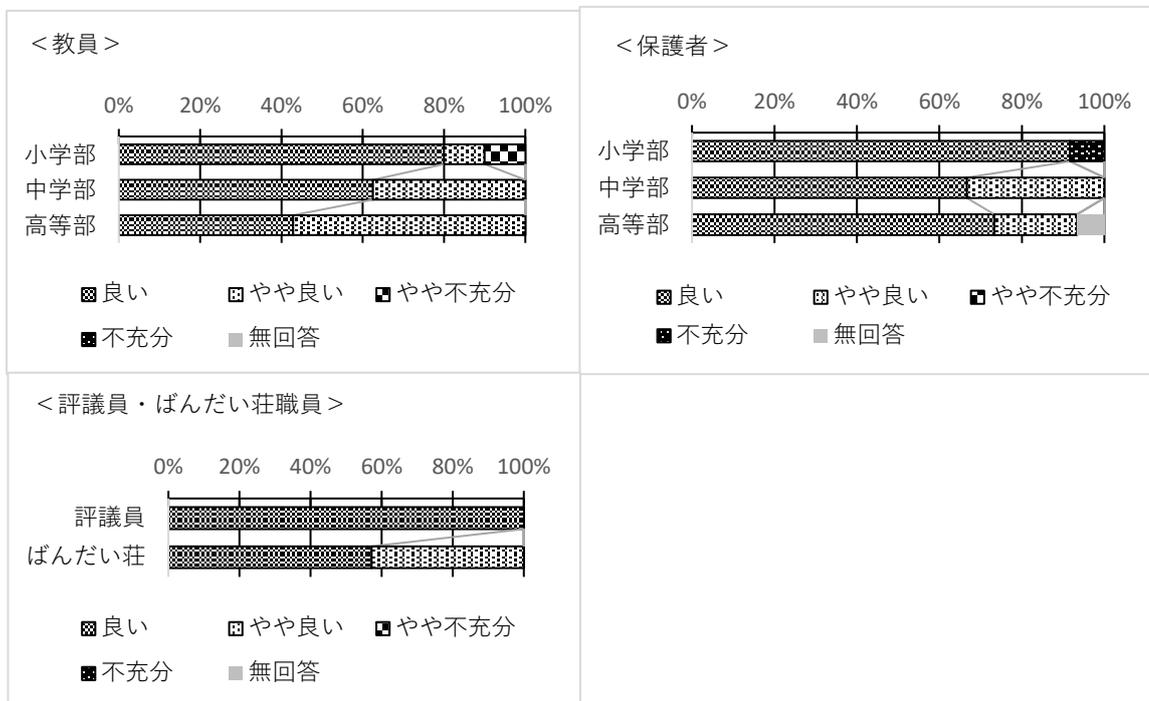


教員、保護者、学校評議員、ばんだい荘職員いずれも「良い」、「やや良い」で評価しており、児童生徒が概ね楽しみを感じながら登校していると評価している。

- ・ 教員は児童生徒の年代が上がるにつれ、「やや良い」の割合が高くなる傾向がうかがえた。
- ・ ばんだい荘職員は約4割が「やや良い」と評価しており、ばんだい荘に入所している児童生徒の様子を踏まえて、児童生徒は楽しみながらも、様々な思いを抱えて登校していることを示唆していると考えられる。

(2) 児童生徒に合った学習の実践

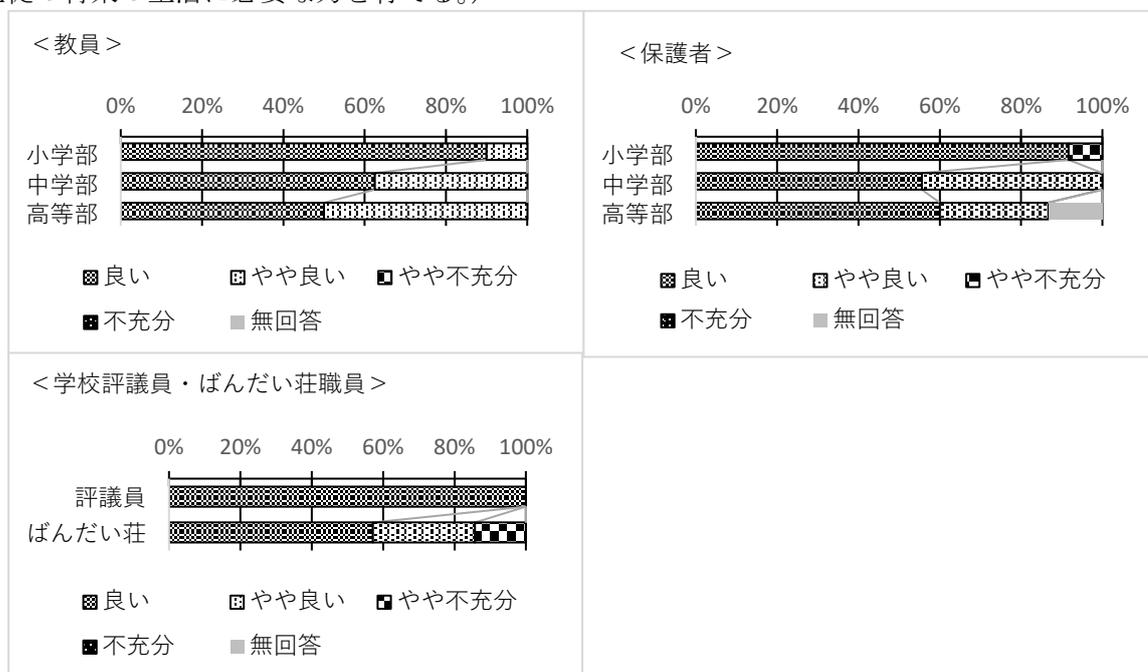
(自立活動との関連を明確にした各教科、各教科等を合わせた指導、自立活動の充実を図る。)



- 教員に「やや不十分」、保護者には「不十分」「無回答」という評価がみられたが、ほぼ「良い」、「やや良い」で回答しており、概ね児童生徒に合った学習と評価が行われていたと評価している。
- ・ 教員に対する聞き方が自立活動と各教科等との関連や自立活動の充実といった内容だったため、そうした観点からの取り組みとしてまだまだ改善の余地があると感じている教員がいると思われる。
 - ・ 保護者の「不十分」については、学習している内容を保護者と共有する過程に問題があったケースで、その後、情報を共有する方法を含め、学習している内容に関して共通理解を図るに至った。

(3) 体験学習と自ら学び、学び合いながら生活に必要な力の育成

(児童生徒が体験的な学習活動を通して自ら学び、集団の中で学び合う姿をめざしながら、児童生徒の将来の生活に必要な力を育てる。)



教員は「良い」「やや良い」と回答しているが、保護者には「やや不十分」「無回答」があり、学校評議員・ばんだい荘職員には「やや不十分」との回答が見られ、改善を要するところがあると評価されている。

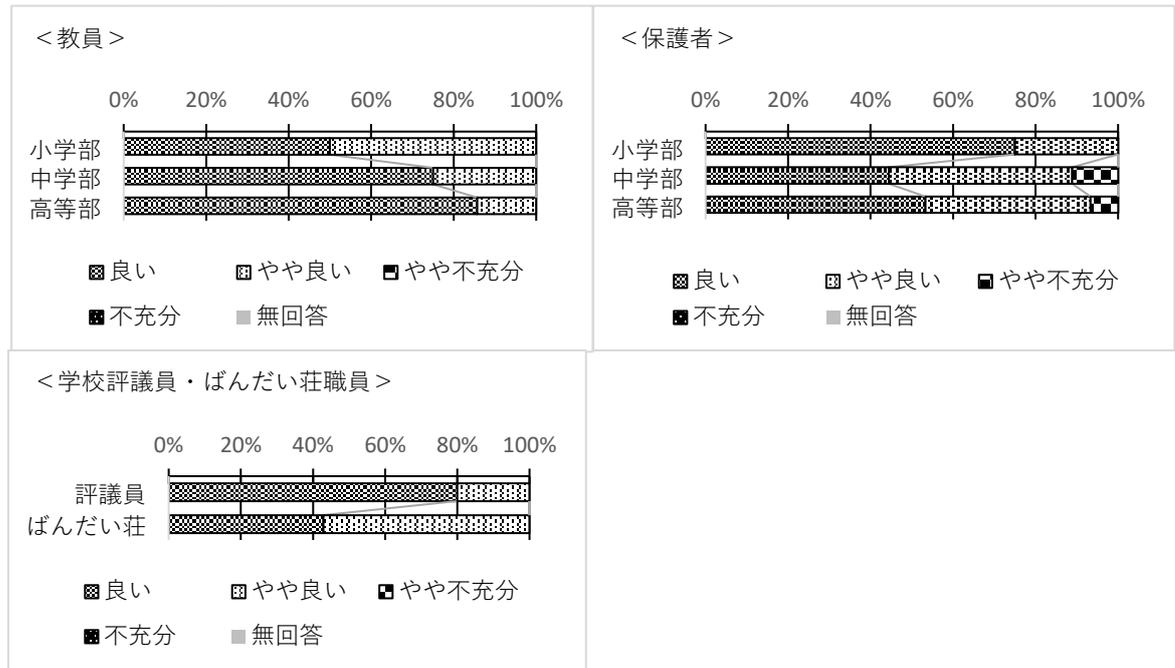
- ・ 保護者の「やや不十分」「無回答」については、意見が記されていないため、明確な理由は不明である。体験的な学習活動を通して、「自ら学び、集団の中で学び合う」「将来の生活

に必要な力を育てる」といった点が具体的な取り組みから実感として感じ取ることができなかったのではないかと推察する。

- ・ ばんだい荘の「やや不十分」は児童生徒の抱えている課題から「他の人、年下への思いやりを育む学習活動がもっと必要である」という意見が寄せられている。

(4) 進路情報の提供と計画的な進路相談

(児童生徒の社会参加と自立に向けた進路選択のための情報提供と計画的な進路相談)

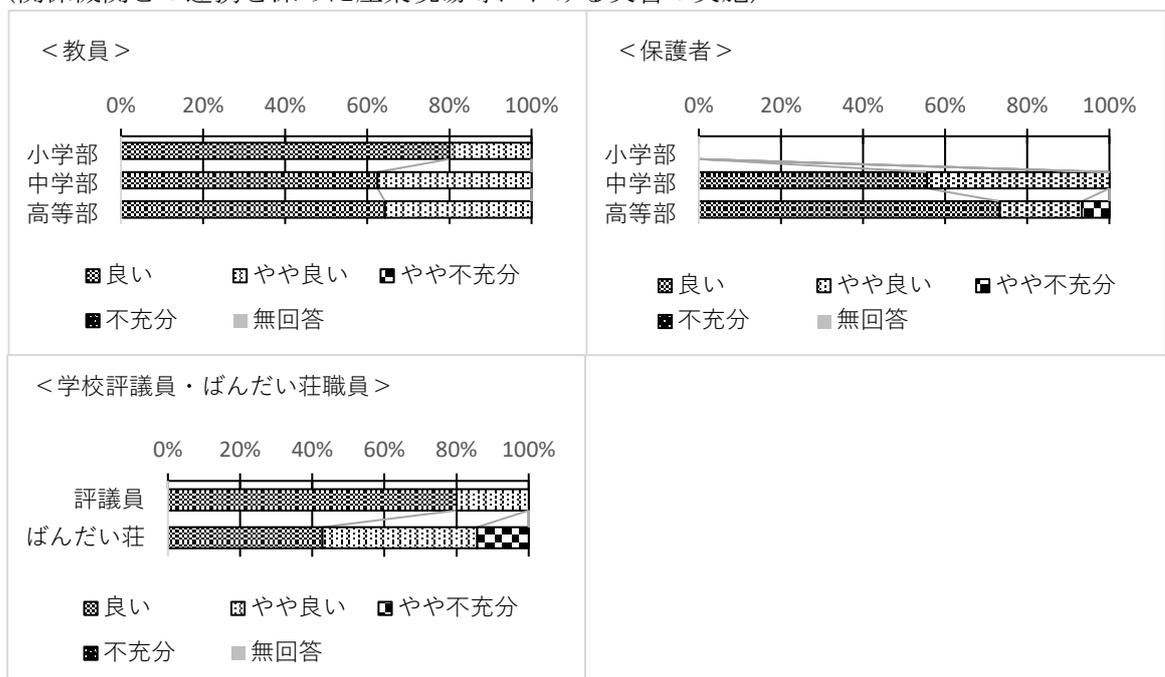


教員、学校評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で回答しているが、中学部、高等部の保護者の中には「やや不十分」との回答が見られる。

- ・ 教員の評価は、学部が上がるにつれて「良い」との回答が増え、進路指導に関する情報提供と進路相談については卒業に近づく学年ほど達成できていると実感していることが分かる。
- ・ 保護者の評価は、約6割が「良い」と評価している一方で、中学部、高等部において「やや不十分」と回答しているが、「居住地近隣の進路情報がほしい。」(中)、「もっと個別面談の機会があっても良い。」(高)と言った意見が述べられている。
- ・ ばんだい荘職員の評価は、「やや良い」が「良い」を上回っていて、改善する余地があると考えている職員がいることが分かる。

(5) 連携を深め、生徒に応じた校内、校外実習

(関係機関との連携を深めた産業現場等における実習の実施)

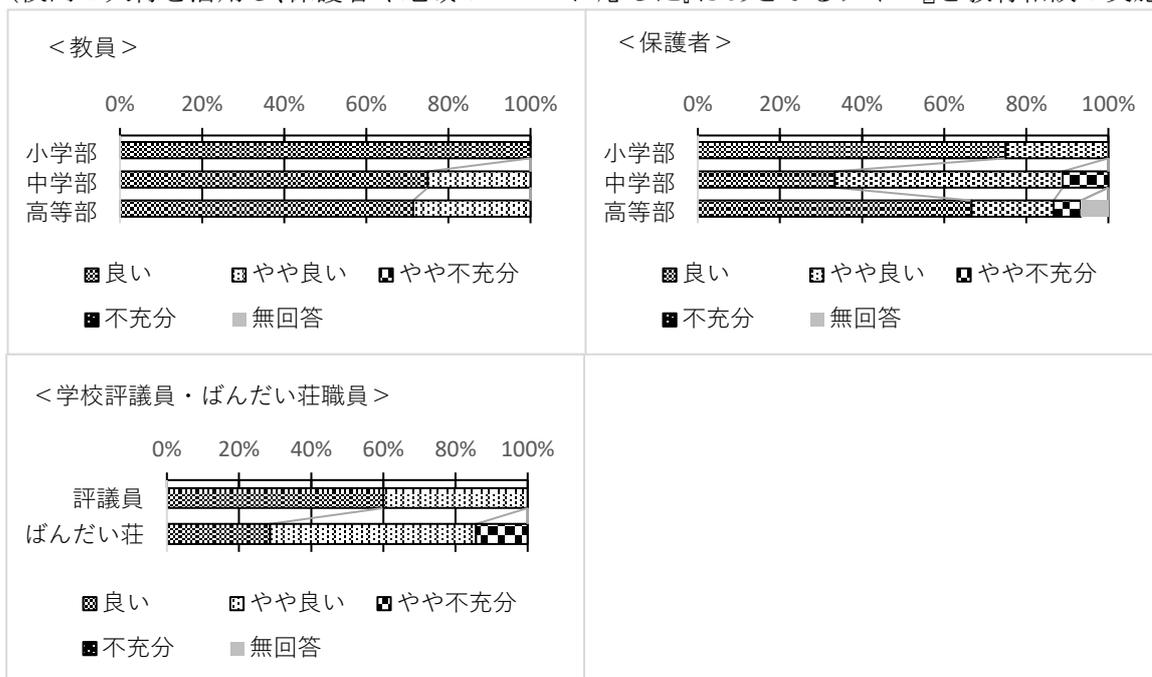


教員、学校評議員は「良い」、「やや良い」と回答しており、実践としては概ね達成できたと評価している。保護者、ばんだい荘職員の中には「やや不十分」といった回答も見られ、改善の余地があるとする考えがあることが分かる。

- ・ 小学部の教員は、「良い」とする評価が約8割であるのに対し、実際に校内実習や校外実習を行っている中学部、高等部教員の約6割が「良い」と評価しており、卒業後の進路を見据えた実習を実施するに当たって、難しさや改善の余地を感じている教員がいることが分かる。
- ・ 高等部の保護者の評価は、約7割を超える保護者が「良い」と評価しており、昨年度の同様の評価項目と比べて高評価であり、保護者は改善したと感じていると思われる。しかし、「やや不十分」との回答もあることから、さらに充実した校内、校外実習が期待されている。なお、小学部の保護者については、進路日より等で実習の取り組みを紹介しているが、直接関わるものではなく、評価することが難しいため、回答対象外とした。
- ・ ばんだい荘職員の評価に「やや不十分」とあったが、実習先の決定について、生徒の能力に依存した選別になっているとの指摘があった。学校としては生徒の能力と適性を考慮しながら、生徒、保護者の協議を重ね、限られた在学期間の中で実習先を決定しており、ばんだい荘職員ともそうした取り組みについて共通理解を図っていく必要があることが分かる。

(6) ニーズに応じた保護者同士の情報交換の場や教育相談の実施

(校内の人材を活用し、保護者や地域のニーズに応じた『はあとふるタイム』と教育相談の実施)



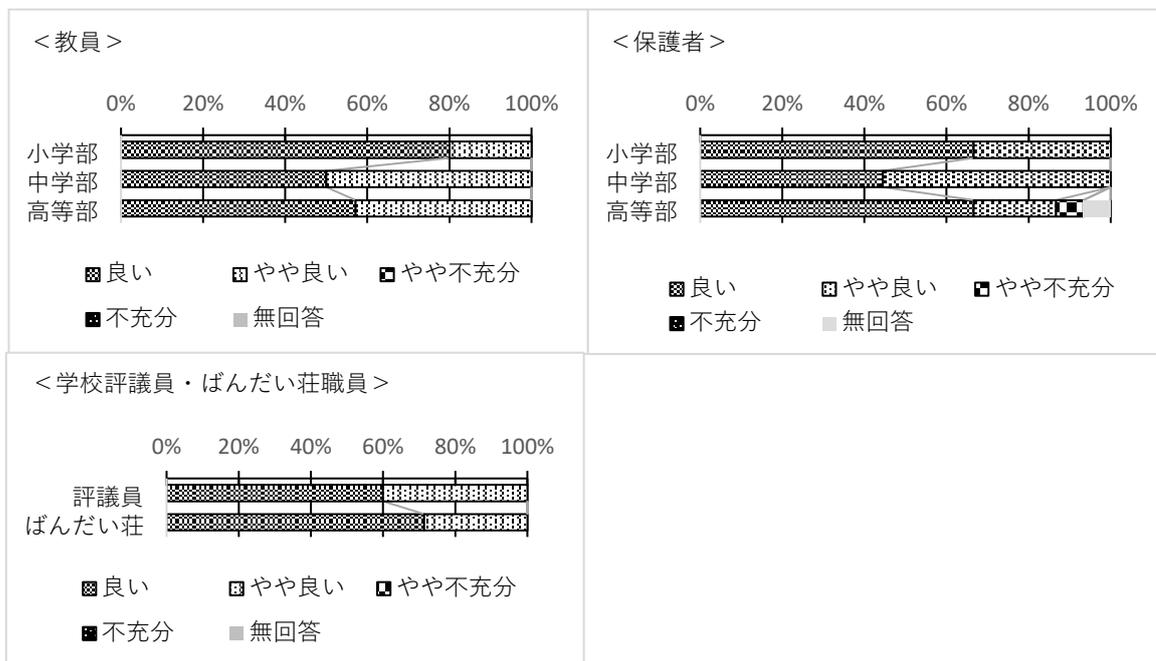
教員、学校評議員は、「良い」「やや良い」で回答しているが、保護者、ばんだい荘職員には「やや不十分」「無回答」との回答が見られた。概ね保護者同士の情報交換の場や教育相談について理解は得られているが、具体的な取り組みが見えないところがあると思われるのではないかと推察される。

- ・ 教員は概ね高い評価をしているが、今年度、教員を対象としたセンター的機能に関する理解を深める取り組みが行われ、高評価につながったと思われる。
- ・ 保護者の評価は、中学部、高等部で「やや不十分」、高等部では「無回答」があったが、保護者同士の情報交換の場に参加できなかつたり、取り組みについて分からなかつたりしたことによる評価であると推察する。より多くの保護者が参加できる工夫や保護者への周知方法について今後も検討が求められる。
- ・ ばんだい荘職員には「やや不十分」との回答があったが、その取り組みについて、目に見えない、情報交換した内容や相談内容の概略だけでも示してほしいとの意見が寄せられた。

(7) セミナーなどを実施し、良い授業づくりのための取り組み

(本校職員及び地域の教育関係者の専門性や指導力の向上を目指した『いなっ子セミナー講演会』を含む地域への発信と活用)

- ※ 今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、地域の教育関係者を除き、本校の教員のみを対象としたリモート講演会として実施し、学校評価の質問項目についても配慮した内容とした。

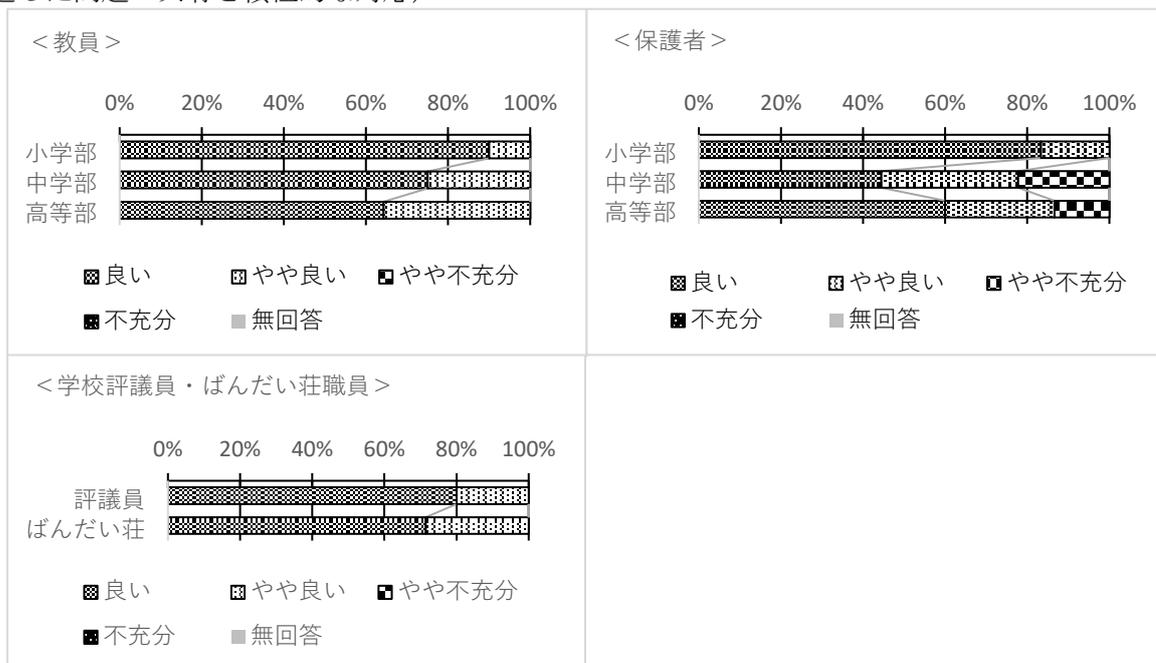


教員、学校評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で回答しており、概ね指導力向上を目指した研修に取り組むことができたと評価している。

- ・ 教員の評価では、小学部の教員は約8割が「良い」と評価しているが、充実した研修ができたと感じている教員が多いが、中学部の教員は5割、高等部の教員は約4割が「やや良い」と評価しており、改善の余地があるとの評価をしている。
- ・ 保護者の評価は、ほとんど「良い」「やや良い」と評価しているが、高等部の保護者は「やや不十分」「無回答」と回答しており、実際の取り組み状況について実感できないことからの評価であると推察する。

(8) 保護者、ばんだい荘との協力し合った積極的な対応

(保護者やばんだい荘、関係機関と連携した児童生徒の安全確保、学部間での活発な情報交換を通じた問題の共有と積極的な対応)



教員、評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」と回答しているが、保護者の中には、「やや不十分」との回答があり、保護者あるいはばんだい荘との協力関係に改善の余地を感じていることが分かった。

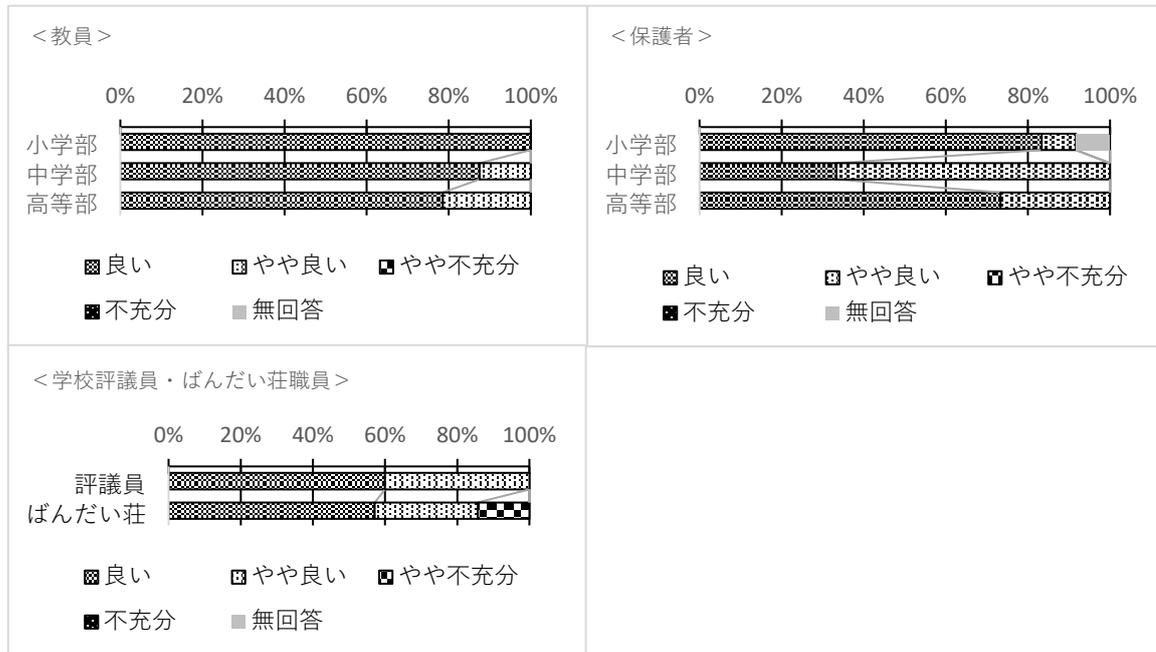
- ・ 教員の評価は、学部が上がるにつれ、「良い」の割合が少なくなる傾向があり、高学年になるほど、保護者やばんだい荘との協力し合った積極的な対応に関して難しさを感じていることが分かった。
- ・ 保護者の評価は、概ね「良い」「やや良い」であるが、「やや不十分」と回答した保護者の意

見には、「その子の障がいに合わせた対応をしてください。」(中)や「以前よりは改善しているが、もっと密な方がいいと思います。」(高)とあり、さらに児童生徒に応じた密接な対応を期待されていることが分かった。

- ・ ばんだい荘職員は、「良い」が7割を超えており、協力し合った積極的な対応が概ねできていると感じていることが分かった。

(9) 自他、命の尊重といじめ防止の取り組み

(自他の人権と命を尊重し、いじめを許さない児童生徒の育成、心のケア)

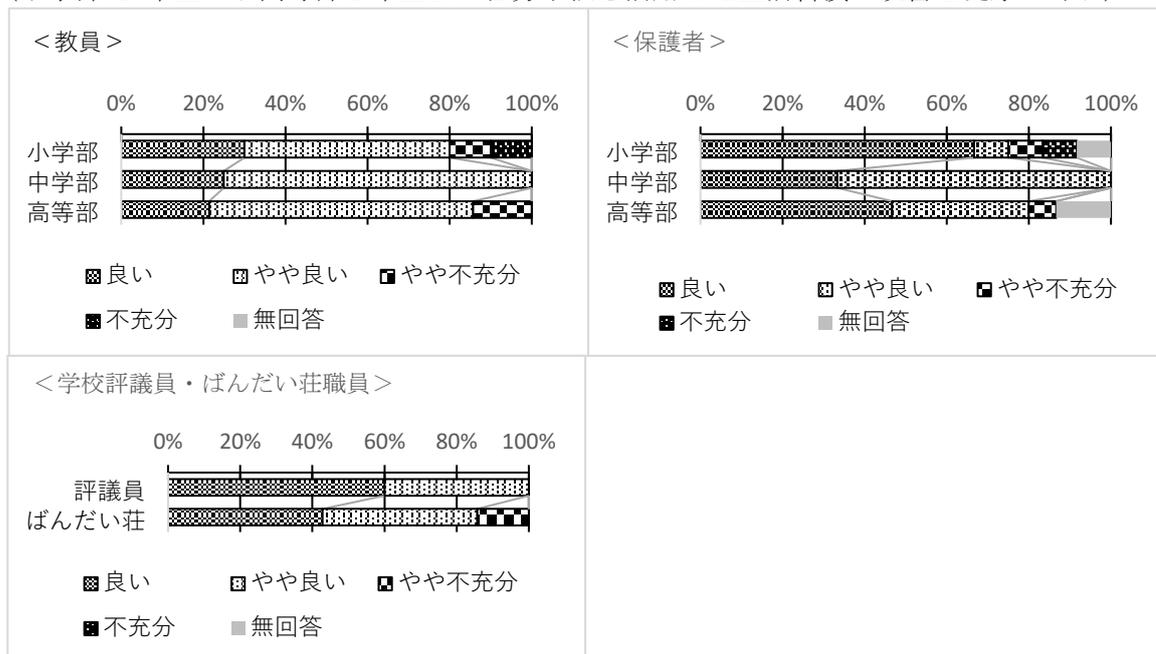


教員、学校評議員は「良い」、「やや良い」と評価しているが、ばんだい荘職員には「やや不十分」との回答があり、改善の余地があると考えている方がいることが分かる。

- ・ 教員は「良い」が8割を超えており、概ね良くできたと評価している。
- ・ 保護者は9割が「良い」「やや良い」と回答しているが、小学部に「無回答」があった。低学年において、自他の命を尊重した具体的な取り組みやいじめ防止に関する取り組みが分からないことによる結果であると推測する。
- ・ ばんだい荘職員の評価は、約8割が「良い」「やや良い」と回答しているが、(3)同様、児童生徒の抱えている課題から「他の人、年下への思いやりを育む学習活動がもっと必要である」という意見が寄せられており、さらに充実した取り組みを期待されている。

(10) 自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりの取り組み

(小学部 1年生から高等部3年生まで自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくり)

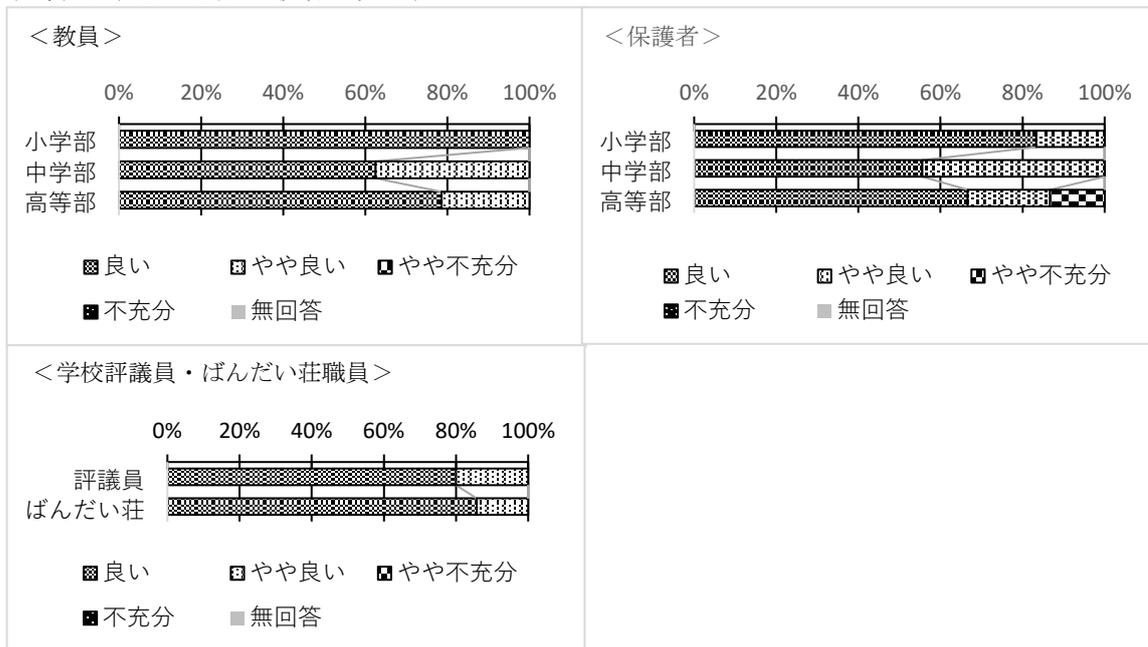


教員、保護者、ばんだい荘職員ともに「やや不十分」「不十分」「無回答」の回答があり、**自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりに関する取り組みは改善する必要があると考えている方がいることが分かった。**

- ・ 教員は「良い」と評価している割合が約3割、「やや不十分」「不十分」と評価している割合が約2割近くいたことを考えると、**自分手帳の活用に課題があると思われる。**
- ・ 保護者は「やや不十分」「不十分」のほかに「無回答」も見られ、「自分手帳のことを知りませんでした。」という意見から推測すると、**自分手帳に関する周知及び活用について、共通理解を図ることができていなかったと思われる。**

(11) 災害への備え、防災教育

(自分で命を守る防災教育の充実)



教員、学校評議員、ばんだい荘職員ともに「良い」、「やや良い」で回答しており、「良い」と回答している割合は他の項目に比べて全般的に多い。保護者には「やや不十分」と回答している方もおり、改善の余地があると考えている方がいることが分かった。

- ・ 教員、学校評議員、ばんだい荘職員は「良い」「やや良い」と回答しており、**概ね良くできた**と評価している。
- ・ 高等部の保護者には「やや不十分」と回答された方がいたが、特に意見は述べられていなかったため、課題に関しては不明である。

4 アンケートの記述内容からのまとめ (別紙資料参照)

- (1) 教員アンケートの記述では、具体的な改善策が示され、**次年度の取り組みに生かされる意見**が述べられた。
- (2) 保護者アンケートの記述では、学校に対する感謝や満足感を表す意見も述べられているが、学校の取り組みに関する話の行き違いから派生している意見が見られた。また、新型コロナウイルス感染症対策による対応について、やはり行き違いから不満の意見が出された。
- (3) 学校評議員アンケートでは、学校の取り組みについて評価する意見が多数述べられたが、今年度は**校外学習の安全対策や新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの学習に関する意見**が出された。
- (4) ばんだい荘職員アンケートでは、学校を楽しみにしている児童生徒が多くいるとの意見が述べられている一方で、**情報公開、思いやりを育む指導、校外実習の取り組みに関する意見**が出された。

5 高等部生徒のアンケート結果

各項目で「いいえ」「わからない」の回答がある程度あるが、大きく問題となる回答はない。学校教育目標に関連する質問事項 (No.2、4) については、「はい」の割合が高く、**運動面や友達との人間関係に関することは概ね達成感を感じている**が、質問事項No.3は「いいえ」と回答し

ている生徒も多く、進んで勉強したり、積極的に行動したりすることが良くてできなかったと感じている生徒がいることが分かる。

また、自分の役割を果たすこと、決まりや約束を守ることについては「はい」の割合が高いが、自分の思いや考えを伝えたり、困ったときや悩んだときに相談したりすることに関しては「いいえ」の割合が高く、自分の気持ちや困ったことを伝えることに課題があることが分かる。

卒業後の進路に関しては「わからない」の割合が高く、障がいの特性から、将来のことを具体的に考えていく困難さはあるが、進路に関する学習や経験が重要であり、さらに充実した取り組みが必要である。

記述による回答では、積極的に良い学校にしようとする意見のほか、授業や部活動、休み時間に関する意見、情報機器を使った学習に関する意見が出された。

<アンケート集計結果>

	質 問 事 項	はい	いいえ	わからない
1	学校生活は楽しいですか。	14	2	2
2	じょうぶな体を作るために、スポーツタイムや保健体育、部活などをがんばっていますか。	15	2	1
3	自分から進んで勉強したり、積極的に行動しようとしていたりしていますか。	10	6	2
4	学校の友達と仲良くしていますか。	17	0	1
5	授業はわかりやすいですか。	14	1	3
6	授業でわからないことがあれば、先生に質問していますか。	13	4	1
7	学校では先生や友達に自分の思いや考えを伝えたり、困ったとき、悩んだときには先生に相談したりしていますか。	10	6	2
8	学校の決まりや約束を守りながら生活していますか。	16	1	1
9	学級の係や委員会での自分の役割をしっかりと行っていますか。	17	0	1
10	自分の進路卒業してからのことについて、しっかりと学習していますか。	13	0	5
○	よい学校にするための意見 <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生の話聞くことです。 ・ あいさつ、みんなと仲良くする学校 ・ 先生が生徒にやさしくしてほしい。 ・ 休み時間がほしい。 ・ 大人の人に対して悪口は良くないと思います。良い学校にするためには、学習を一生懸命に取り組んだりすることです。 ・ 総合の時間にいろいろな見学をしてみたいです。 ・ ドッチボールを部活でやってみたいです。 ・ 一人一台タブレットを配付 ・ わかるか、わからないかを先生からもその都度よく聞いてほしい。 ・ もっと昼休みを増やす。 ・ スマートフォンやタブレットを勉強に使えるようにしてほしい。 ・ 作業の時間を少なくして、その他の授業にしてみたらどうかと思う。 			

教員、保護者、学校評議員、ばんだい荘職員アンケート記述内容

<教員>

「2 児童生徒に合った学習の実践」

「3 体験学習と自ら学び、学び合いながら生活に必要な力の育成」

- 学部を超えた情報共有の話し合いの機会の時期が遅いのではないかと。さらに分かりやすく情報共有できる仕組み（学びの履歴シートの活用）等をさらに活用していけるのではないかと。

「10 自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりの取り組み」

- 他校から入学してきた生徒では、「自分手帳」を知らない生徒もいたため、転入学時の持ち物に加わることで、生徒や保護者、前籍校にも周知してもらおうとよいのではないかと。
- 自分手帳の活用については不十分
- 自分手帳の活用については、小学部の段階から継続して活用していかなければならない。保管場所についても十分に検討しなければならないと感じる。

<保護者>

「2 児童生徒に合った学習の実践」

- 何の学習をしているのか、全く見えてこない。できていることをずっとやって、先に行かず、そこ止まりで不安。(小)

「4 進路情報の提供と計画的な進路相談」

- 離れた親にもわかる情報が欲しい。(中)
- 現在、個人的に連絡はとっていますが、面談の機会など、もっとあった方がよいと思う。(高)

「6 ニーズに応じた保護者同士の情報交換の場や教育相談の実施」

- コロナでも情報交換できるようにしてください。(中)

「8 保護者、ばんだい荘との協力し合った積極的な対応」

- その子の障がいに合わせて対応をしてください。(中)
- 以前よりは改善していますが、もっと密な方がよいと思います。(高)

「10 自分手帳を活用した生活習慣の改善と健康づくりの取り組み」

- 自分手帳のことを知りませんでした。(小)

「全般」

(小学部)

- 楽しく、学校生活を送っていると思います。
- いなっ子セミナーとは、どんな活動ですか。
- 今年はコロナの影響もあり、例年にない状態で1日1日が過ぎていっています。そんな中、他校では自粛している授業参観等を実施したり、良いことである反面、ばんだい荘では帰省、外出自粛が出ており、授業参観等のお知らせをいただいても全く行くことができず、毎回歯がゆい思いをしております。通学生側ではなく、ばんだい荘生の家族に寄り添ってほしいと思うのはわがままでしょうか。正直しんどいです。
- お便りを休んでいる間にためておいて、出てきたときに渡されても遅い情報がある（風邪症状についてなど）。こういうものは渡った時点で親に電話するか、取りに来るか、何かしら知らせが欲しいです。次々電話口でいざ言われても、、えっ、、そんなお便り来てないし、いつ決まったことなのか、、急に言われても対応できないことがある。登校してはいけないと言われてたが、お便りには登校を控えてくださいと書いてある。私これ見ていたら登校させようとは思わなかった。「絶対ダメ」と「控える」では意味合いが違う気がする。伝え方によってはすごく嫌な気持ちになるし、不安になる。子供の平熱など高い時もあるから、やりすぎな気がする。ここまでやるなら、教室はきちんと隔離しているんだろうなと思ってしまう。ソーシャルディスタンスが徹底しているんだなと思ってしまう。伝え方って言葉ってきちんと伝えないと、誤解されるし、本当トラブルになるから気を付けてほしい。

(中学部)

- 関わっている先生方が優しく接して下さるので、安心して通学することができます。

(高等部)

- 担任の先生、学校の先生が生徒の特徴を把握していただいて、よく指導してくださっている。
- 進路については、保護者の負担が大きい、仕方がないかなと感じる。

<学校評議員>

「全般」

- 校外活動の安全対策をお願いします。地区としても町に対して話をしています。
- 新型コロナウイルス感染症の収束がみえないところですが、今後も情報交換、共有を行いながら、子ども達の学びを深めていければと思います。
- 今回は学校評議員会に欠席となりましたが、「学校経営・運営ビジョンの取り組み」の写真や文面より、学校の様子がよくうかがえました。また、第2回学校評議員会記録の内容からも生活の様子がよく理解できました。何よりも「教育活動後援会」の設立を通して、地域団体の方々にも学校への理解が広がったことが、今後、共に生きる良い方向性が見られ、喜んでいきます。

<ばんだい荘>

「3 生活に必要な力の育成」

- 他の人、年下への思いやりを育む学習活動がもっと必要かと思う。

「5 連携を深め、生徒に応じた校内、校外実習」

- 能力に依存した選別になっている。失敗をして初めて気づくものもある。

「6 保護者同士の情報交換の場や教育相談の実施」

- 目に見えない。情報交換内容や相談内容の概略だけでも全体に示してほしい。

「9 自他、命の尊重といじめ防止の取り組み」

- 他の人、年下への思いやりを育む学習活動がもっと必要かと思う。

「10 生活習慣の改善と健康づくりの取り組み」

- 自分手帳とは何か知りません。生活習慣の改善ならば学校評価資料内の取り組み方が違うと思う。

「全般」

- 子供達は毎日学校へ行くことを楽しみにしています。一人一人を大切にいただいていると感じています。
- ほとんどの児童生徒は学校を楽しみに登校しています。